

清瀬とその
周辺の
入り方



清瀬の方言

● 方言についての一考

方言は地方に根付いた言葉である。対人関係から自然現象まで、あらゆるものに、その地方における長い生活のなかから生じた独特の表現があり、方言は地方の文化、故郷の形状などとも云われている。方言には狭い集落でのみ通じるものから、広範囲にわたるものまである。広い地域で使われている方言として、関東のべえべえ言葉が有名であるが、茨城、千葉では語尾がハネ上がるのに対して、清瀬を含む旧北多摩、西多摩、南多摩の三多摩、神奈川の北中部、埼玉の入間郡、北足立郡あたりでは語尾が下がり、イントネーションが異なっている。

方言は消滅する運命にあり、代わってカタカナ表記による外来語の時代がすぐそこに来ている。その一方で、方言を発掘し、出版物にする活動も各地で盛んである。清瀬ではどうかというところ、日常的に方言を話した方々はすでに八十歳を越えており、方言について書かれたものもほとんどない。そこで、この機会に清瀬の方言を記録に残しておきたいと思い、以前に作成した清瀬の方言集の修正と補足を行った。方言と現在使われなくなった共通語との判別が難しく、それに思いもかけぬ出来ごとや体調不良が重なったため、検討が不十分となってしまうが、とりあえずまとめてみたのがこの表である。個人での取り組みには限界があり、まだ多くの方言や失われた言葉が残っていると思われるので、ご存知の方は是非お知らせいただきたい。

なお、私ごとであるが、今後、清瀬が村であった時代の集落の年中行事などを調べてみたいと考えている。いろいろお教え頂ければ幸いである。

平成二十四年二月二十六日

齊藤 靖夫

二〇四一〇〇二一

清瀬市元町二一三一〇

電話・FAX 〇四二一四九一―五三七五



略 歴

昭和六年二月二十四日 清瀬村上清戸九十六番地 出生

J A 東京みらい常務理事 (財)内田農業振興会表彰)

清瀬市固定資産評価審査委員会委員

清瀬市郷土博物館協議会委員 (市民表彰)

現

清瀬市選挙管理委員会委員長 (自治功勞表彰)

清瀬市文化財保護審議会委員

清瀬市社会福祉協議会副会長

● 清瀬の方言

例文を「・・・」で示す

ああせもの
ああになよ
あいじんや
あいびあい
あおていた
あがく
あかつこ
あかにし
あかるむ
あきつぼ
あくせいした
あさしがた
あさづくり
あじ
あしつこ
あしつるし
あしんぼ
あすく
あぜつぼ
あだしてゐる
あたまつぱり
あつひをひく
あとしやりいちこ
あとつか
あにこく
あーにそら
あまつこ
あめをくれる
あらく
ありしたげい
あんじよきた
あんじよにも
あんだんべい
あんで
あんとしても
あんぶく
いいかげんぶし
いいつぎ
いいなかしてゐる
いえごみ
いごく
いせつぱり
いちまき
いっかれ
いっくみ
いっつける
いっばしよる
いび
いぶい
いぼたげえろ
いまいましつてい
いまさかもち

食事どきのおかず。副食。
なあになよ。(相手の話を受け止めて)それについては。それもそうだが。
相新家。兄弟で本家より分家して世帯をもつ。
話し合つて妥協する。お互いに譲歩する。合意。歩み合い。
驚いて顔色を変えた。不意の出来事で顔色が変わった。色を失った。
欲張る。欲がいて。
赤ん坊。
因業な者。わからずや。
(果物等が)熟す。実る。
飽き易い人。仕事に熱中できず、永続きしない人。
あきれ返つた。あきれ果てた。
朝しがた。朝がた。
朝作り。朝食前の仕事。
蜘蛛の糸。腐つた物などから出る糸状のもの。「あじを引く」
足跡。
足吊るし。足長蜂。
足。
あそこ
畦堀。畑の端など隣地の山林などから根が入り込まないように掘る溝のこと。
仇しする。仕返ししてゐる。(軽い報復)
割り勘。(兵隊勘定)
暑日を引く。暑気あたり・日射病・熱中症になる。
(引くは風邪を引くと同じ用法)
蟻地獄。ウスバカゲロウの幼虫。乾いた土に盃状の穴を作り、
入つた虫を捕える。
後側。うしろつかとも云う。
なにを云う。(喧嘩言葉)
なにそれは。(問いかけ)
女の子。
甘言をつかつてだます。飴をしゃぶらせるとも云う。
比較的新しい畑。開墾地。↓古田
そこにあるだけ。全部なくなるまで。
なにしに來た。何用で來た。何か用か。
お世辞でも。真似事でも。「あんじよにも一言云つてもらいたかつた」
なんだろう。
なんで。
なんとしても。どうしても。
泡。
いい加減。適當。杜撰。(ぶしは強調語)
言い継ぎ。(集落中での伝達方法で)隣から隣へ言葉で伝える。
好い仲してゐる。恋愛中。
家混み。家屋が込み合つて建つてゐること。
うごく。動く。
威勢張り。威勢がいい。元氣。向う氣が強い。
一族。地類。親戚關係。「あそこのいちまきだ」
乗れ。のっかれ。「自転車の荷台にいつかれ」
土葬の時代、葬儀の総てを担当する当番(隣組の代表で構成された)
結び付ける。結える。「自転車の荷台に荷物をいつつける」
行つてしまつた。
ゆび。指。
煙たい。
いぼ蛙。
いまいましいの強調語。
大福餅の大型のものでいろいろの型や色付けがある。法事に使用。

いもんどめ
 いやちゆうほど
 いら(えら)
 いんけん
 いんべえや
 うざつてえ
 うすつきらく
 うすとりけ
 うつかぶせた
 うつちやあわすれた
 うつつぶす
 うでる
 うなう
 うなりとばす
 うらつちよ
 うろ
 うろのく
 うんじろ
 うんまける
 うんめる
 えごい
 えぞをひく
 えぞ
 えべつさま
 えんだら
 おうしゆつこ
 おおあね
 おおやまとんぼ
 おかぶ
 おかまかせ
 おさまえた
 おしつぱりがつよい
 おしみ
 おしみりしようがつ
 おせえたら
 おそつびる
 おぞむ
 おつかう
 おつかかる
 おつかぶせる
 おつき
 おつこちる
 おつころんだ
 おつつめる
 おつとばす
 おつぱいた
 おつびしよる
 おつびらいた
 おつべしこむ
 おつべす
 おつぼる
 おてんま
 おへんなし
 おもらい
 おろのく
 おんべかつぎ

衣紋止め。安全ピン。
 いやと云うほど。相手を痛い目に合わせたなどと云う。
 たくさん。多く。「いら居る」大勢いる。
 見当。見た目。(豚など)計量しないで売買する。
 行くべえや。それでは行こう。同行しよう。
 煩わしい。うつとうしい。
 薄気楽。物事を深く考えない。(気楽の悔り言葉)
 能無し。馬鹿。(侮る言葉。喧嘩言葉)
 責任や不利なことを他の人に負わせる。かぶせたの強調語
 すっかり忘れた。
 つぶすの強調語。
 茹でる。「うでたまご」
 耕す。
 大声で叱る。なつとばすなど強調語。
 先つぼ。先端。
 洞。洞穴。
 間引く。おろのくとも云う。
 虫など踏まれて出る内臓。
 (桶などの水を)捨てる。空ける。
 うめる。埋める。(熱い湯に)水を足す。物を穴の中に捨てる。
 えぐい。
 図面を描く。①図面・計画作り。②裏工作をする。画策する。
 姫黄金虫。豆類を好んで食す害虫。
 恵比寿様。恵比寿講。一月二十日と十一月二十日に行う。
 だらしない。しまりのない。ひきずり。
 奥州っ子。(昭和の初め頃に)東北地方(奥州)から出稼ぎに来た子供
 大姉。長姉。
 鬼やんま。
 陸稲(おかぼ)。「水田のない地方ではおかぶを作る」
 十月末に吹く風。(冬の訪れの前兆)
 捕まえる。「バツタをおさまえた」
 押し張りが強い。強引なところがある。
 おむつ。
 おしめり正月。長い干天の後に雨が降ったときに設ける農休日。
 (多くは半日。言い継ぎで伝えた)
 しなくてもよいことをする。無用なことをする。せえたらとも云う。
 遅い昼食。
 バケツなど容器の底に溜まるもの。「砂がおぞんでる」
 あてがう。
 寄り掛かる。
 責任をなすりつける。押しかぶせるの強調語。
 ①うつき。(畑などの境界に植えてある)卯の木。②タンスなどの木釘
 落ちる。
 ころんだの強調語。
 詰めるの強調語。
 追い払う。おいとばす。
 除いた。取り去った。仲間から抜かした。
 (枝などを)折る。
 溢れたの強調語。
 押し込むの強調語。無理に入れる。
 押すの強調語。
 放る。投げるの強調語。
 労力奉仕。集落中で出て道路補修(砂利道)などする。てんま。
 無用なこと。しなくてもいいこと。へんなしとも云う。
 乞食。
 間引く。
 迷信家。方位など人並み以上に気にする人。

かぎつちよ
かくしのめす
かくなす
かくねつこ
かくねる
かしがる
かしゃもち
かすつばなし
かせる
がたい
かたつちんば
がつけえがある
かつたりい
かつちやくる
かつぼす
かて
かどぶし
かま
かまくらちようちよ
がめた
からおと
がらぎつちよ
からくち
からすのおきゆう
からつちや
かりつこ
がれている
かんな
かんます
キーキーむし
ぎうた
きごつぱり
きしやご
きしやつて
きたりもの
きぬぶるい
きみ
きゆうすなう
きようこつねえ
きようら
きれつと
くいっていろ
くげん
くさばっこ
くさむしり
くすつぱ
くたす
くつかく
くつちやべる
くつちらねえくせに
くつばらう
くでつてる
ぐでつばなし
ぐでなし
くびふり

痒い。
みずき。ばつばつこの木。(枝がカギのようになっている)
隠す。忍ばせる。
隠す。
かくれんぼ。
隠れる。
かたむく。「荷物がかしがってるよ」
かしわ餅。
猥談。わいせつなはなし。
①(虫の毛などに触れて)腫れる。②悪い方に感化される。
体格。
はきものが不ぞろいなこと。
段差がある。
かつたるい。疲れてだるい。
杓る。
刈干すの強調語。
うどんのかて。うどん、そばなどに入れるやさいなど。
かつおぶし。
柱上変圧器。
アゲハ。
ひどく疲れた。疲労困憊した。
イラガの幼虫。(触れると猛烈に痛い)
さいかちの木の実
軽口。軽はずみな言葉。口が軽いこと。
カラスのお灸。口の端にできるヘルペス。
空茶。お茶だけで添える菓子(茶菓子)がないこと。
枯れた小枝。もやし木。
痩せすぎている。
又の形をした里芋の洗い道具。
かき混ぜる。波風をたてる。
木喰虫の成虫。鉄砲虫。(幼虫は木に穴をあける)
牛太。顔立ちの悪口。
意地っぱり。強情。
おはじき。
来てしまつて。「雨が降つてきしやつて」「人がきしやつて」
(不都合の場合に使う)
移転してきた人。よそ者。(侮り言葉) (反)はえぬき。土地っ子。
絹篩。微細目のふるい。転じて金銭に細かい人。損得に厳しい人。
きび。黍。(きび餅の原料となる)
氣を失う。氣絶する。失神する。
小さいことでも大騒ぎにする。
今日あたり。
播種したが発芽しなかったところ。
物に掴まっている。
苦痛。「風邪をひいてくげんだ」
草むら。叢。
草取り。除草。
落葉。堆肥の原料や燃料。
くさす。けなす。悪く云う。
歯で固まりを割る。歯で砕く。
おしやべり。しゃべる。(侮り言葉)。
知りもしないくせに。知つたふりをして。
喰い私う。全部食べて残らない。
①鳥がさえずつている。②何か意味の判らないことを云つてる。(侮り言葉)
無用なはなし。何の意味もないはなし。
無用なことをする。無意味なこと。
首振り。地域の顔役。旦那。ボス。

ぐれてる
ぐれやど
くれらあ
くんのむ
けえりんぼ
けけしい
げす
げば
げびてる
けぶつとろい
けぶり
けんども
けんむし
こいてたか
こうた
こうばいがのろい
こえたご
こきやがったな
ごくそつ
こぐる
こごたれた
こごむ
こさ
こじく
こすい
こせえる
こそつぺい
ごつた
ごのうがきかない
このめえ
こば
こぶたむし
こみにされた
こめのいとこ
ごよう
ころ
こんだ
ごんべえ
さがねて
さきつちよ
さくい
さくまい
ささらほうさら
さしつかつき
ざつかけねえ
さつまだんご
さぶい
さんこちーち
しいな
じじばば
したべろ
しちかてえ
しつかく
しつたつ
しつたつこ
しつちげえる
しつちらかつて

不良。まともでない。
木賃宿。安宿。浮浪者用宿。
(物を)呉れてやるよ。
飲み込む。
変り品種。突然変異。
けちな。人並み以上に損得に細かい。
屎尿。糞尿。下肥。
毛。毛髪。
下卑てる。下品な。
根拠のないはなし。煙のようにはつきりしないはなし。
気配。
けれども。
けむし。毛虫。
けむし。毛虫。
云っていたか。「そんなことこいてたか」(喧嘩言葉)
手、足の甲
①勾配が鈍い。傾斜が緩い。②頭の回転がにぶい。愚鈍だ。
肥担桶。肥桶。
云ったな。(喧嘩言葉)
特別。とてもいいなど。
こぐる。
小言を云われた。叱られた。
かがむ。
日影の畑・場所。作物など育ちが悪い。
去って行く。厄介払いなどに使う。「こじいたか」「出てこじけ」(喧嘩言葉)
狡い。ずるい。自分に損にならないように立ちまわる。
捨える。作る。
こそばがゆい。滑らかでない。転じてなんとなく気が合わないなど。
水分を多く含んだ土。ゆるい泥土。
五能が利かない。体が自由にならない。不自由。
この前。このあいだ
木端。机などの角。
カメ虫。害虫で触れると臭い。
込みにされた。一緒にされて損をした。一緒にされて不満等。
父方の従兄弟。(麦のいとこは母方の従兄弟)
伐った木の根元から出る芽。催芽。
犬、豚などの仔。
こんどは。この次は。
日照草。スベリヒユ。除草剤に強い。
さがして。探して。「さがねてよう」
先端。先の方。
気さくな。気軽な。
作米。作男。農業用奉公人。雇人。
物を大事にしない。粗末にする。無駄にする。
差し担ぎ。桶などに棒を通して前後2人で担ぐ。
気取らない。親しみのもてる。気安くはなせる。
さつま団子。生のさつまいもを薄切りにして干し、粉に挽いて、だんごを作る。
さむい。
サンコウ鳥。(近頃みかけない)
米や麦など実の入っていない殻。
春蘭。
舌。
口がかたい。生真面目。
割る。歯で物を分ける。砕いて分ける。
引き立つ。目だつてよく見える。
底に残っている少量のもの。
捻挫する。(寝ちげえるは類語)
ちらかつての強調語。

しつとあばく
しつとめる
しつぱれ
しつぷる
しと
しとかたけ
しどめ
しなつつぶ
しばやし
じぶくれる
しゃつこい
しゃつたらがにくい
しゃつてから
じゃまがつて
しゃりくりけえつて
しゃる
じゃんか
じゆうやく
じゆうをゆう
しようき
しよつぼりねえ
しんきやく
じんじよつき
じんだんぼ
しんと
しんなりくんなり
しんもげる
すく
すっこ
すつとぼける
すつぼる
すでつけえ
すてつぺんに
すねらずねら
すみつこ
ずるつちぼり
すをくつた
すんないな
せいがかれる
せいる
せぐつ
せけんし
せな
ぜにつくび
せんぜもの
そうかつて
そつけえつた
そらし
そらつぶく
そらべんじ
それちんべえ
そんじやあなあ
そんで
そんなこたああんめえ
そんぷりがわりい
たあら
たつば

引き裂く。破る。「障子をしつとあばいた」
引き止める。枝などを引き寄せる。
遠戚。縁の薄い親戚。親類端。ひつぱれともいう。
振り払う。

ひと。人。
ひとかたけ。一食分。(ひとかたきは共通語)
草ぼけ。

劣っている粒。豆類などで結実のよくないもの
芝居師。役者。損得について立ち回りの上手な人。
陰気に怒る。ふくれる。

冷たい。ひやつこい。
顔を見るのも腹が立つ。顔も見たくない。憎悪。
してから。

じゃまにして。邪魔にして。
おしやれをして。目立つほど化粧して。
下がる。後ろへ下がる。「しゃつて」
ざらざらしている感じ。

ドクダミ。
文句をつける。不満・不服を云う。苦情を云う。
しおき。仕置き。罰。

手持ちぶさたの状態。所在ない。
新客。初めて妻の実家を訪れた夫。
沈丁花。

樗の実。
中芯。中心。
見た目は弱そうだが芯は強い。「やつはしんなりくんなりよ」
(野菜などが)霜によって被害を受ける。霜害。

敷く。「ふとんをすく」
(主として鳥の)巢

とぼける、知らない振りをするの強調語。
投げる。放るの強調語。
素でつけえ。でつかいの強調語。「すでつけえはなし」(ほらばなし)

頭から。前触れなしに。遠慮しないで。いきなり。
何か不満で態度をはつきりしない。時間ばかりかかる。
隅の強調語。

雑巾などゆるくしぼること。
巢を架けた。巢を作った。
するなよな。してはだめだよ。(子供への注意)

息切れする。
仲間に入れる。「せいてくれ」(入れてくれ)「せいろ」(入れてくれの強要語)

どうでもいいと思われること。
世間師。地域の出来事をよく知っている人。
兄。

着物の襟が折り込まれている状態。
やさいの総称。
そうかといつて。
そりかえつた。

高木の枝を伐る職人
空を仰ぎ見る。知らんふりをする。
空返事。から返事。実のない返事。

そんなに少し。
それではな
それで。「そんでか」(それでか)「そんでなあ」(それでなあ)

そんなことあるまい
無愛想。(素振りとは意味が異なる)「そんぷりが悪い」
俵。穀物などを入れるワラ製の袋。
高さ。身長。

たつべ
たつべに
たなぎ
たもとくそ
たらんくらん
だんだん
だんだんあやめ
ちいちいぼう
ちーりきまんぜい、だ
ちきしよう
ちくつと
ちつたあ
ちつとらつ
ちつとんべえ
ちにくる
ちやが
ちやぞつぺえ
ちやんと
ちゆうくまん
ちゆうつばら
ちよつくら
ちんたらちんたら
ついとり
つえんぼ
つくてつぱ
つごし
つつかえる
つつかけ
つつころんだ
つつとる
つぶあし
つぶで
つんぐむ
つんのめす
つんのめる
つんむく
つんもす
つんもる
て
でえでえしてる
でがある
でがんす
できもの
できろぼ
てしよう
てせね
てつかした
てつべちこ
てつべんがけ
てつぼうむし
てつぼうをいう
でど
てばたき
てましごと
てんから
でんがらすつぼ
てんがらまんがら

霜柱。
立つべ煮。急な煮炊き。急ぎ炊き。即席煮。
納屋の天井部分に設ける荷物などの置場。棚の上。
袂の底に溜まるごみ(綿)こみみたいなもの。血止めにつかつた。
ぶらぶらしてる。いい加減な。不熱心な。気のない。
階段。幼児語に近い。
段々アヤメ。グラジオラス。
蝉。にいにいぜみ。
じゃんけんぼん。(あいこの場合、勝敗が決まるまで「だ・だ・だ」と続ける)
ちくしよう
ちよつと。少々。
すこしは。
少しづつ。
少し。量のこと。
つねる。
ちがや。茅。
お茶のときの菓子。茶菓子。
きちんと。
すずめ蜂の一種。
腹立たしい。
ちよつと。「ちよつくら行ってくる」
のろのろ。ぐずぐず。気のない仕事。怠け仕事。
取り合えず
杖。
つくては堆肥、その置場。堆肥置場・小屋。
次越。翌年に繰り越すこと。
つかえる。(車、物が)順調に行かない。支障がある。
木製のサンダル。
転んだの強調語。
突つとる。ささる。
素足。
包まないで。そのまま。直に。
家の中にいて出歩かない。つんぐんでいるは(侮り言葉)。
前のめりに倒す。
前のめりに倒れる。
脇を向く。嫌な人に会って脇を向くと、つんむいてやったなど。
燃やすの強調語。
もる。漏るの強調語。
野菜などの支柱。
富裕者の風格。大人風。
品物が予想したより量がある。予想外に多い。
どこにでも出かける人。出歩きの特に好きな人。(侮り言葉)。
腫れ物
できれば。
小皿
手銭。手持ちの金。手銭をつかつては、自分の金を使つてのこと。
出くわした。出会った。
てつべん。頂上。木の最先端。
下肥など作物の上に直にかける。
鉄砲虫。木に穴をあける害虫。「生活は鉄砲虫だ」(喰つて抜けるだけ)
でまかせを云う。嘘を云う。
出処。出身地又は実家。出自。
①手拍子。②金を使い果たした状態。
手間仕事。一回いくらの仕事など。手間賃仕事。手間取り。
頭から。元から。てんから話にならないなど。
当てにならないこと。適当なこと。出まかせ。無責任なはなし。
のらりくらり。身を入れて仕事をしない。つかみどころがない。

てんぐるま
てんこもり
てんでんこに
てんびしよ
てんぼこだし
とおっぱしり
とかげ
ときがし・ときがり
ところまんざら
どじ
とじよう
とつくりまつり
とつちまり
どどめ
どびんわり
とや
どやす
とんが
とんかち
とんぼぐち
なかんべえ
なぎなた
なじりぐい
なっくる
なでる
なにをぬかす
なびる
なべえぐち
なんきんぶくろ
なんどり
なんぼん
にーだんご
にーごい
にしはどつち
にちゆうな
にばんざ
にぶ
にぶい
にらむし
ぬかす
ぬくてえ
ぬけがら
ぬりや
ねえた
ねつい
ねぶつてえ
のうがきをこくな
のうじ
のつこむ
のつばる
のて
のめつこい
ばいばな
はえつき
ばか
ばかすかし
ばかにしくさつて

手車。手引きの荷車。大八車。
大盛り。山盛り。
各自勝手に。
手。手の喧嘩用語。「こんなとこにてんびしよだしやがつて」
突然に。だしぬけに。
遠走り。遠くのほうへ行くこと。「自転車で遠つぱしりした」
カマキリ。
時貸し・時借り。金を一時的に貸すまたは借りること
ところどころ。
土地。地面。
屠場。豚や牛の屠殺場。
徳利祭り。神楽や舞などをせずに、酒を奉納し、飲んで祝う。
取り締まり。「とつちまりがつかねえ」(混乱していて結論が判らない)
桑の実。
尺取虫の異名。尺取虫を木の枝と間違えて土びんを掛けたことから
にわたりの休卵期。抱卵期。
①作物などを売り払う、②痛めつける。
唐鉞(とうくわ)。主として根などを切るときに使う。
玄能。主として釘を打つ道具。
主として農家の玄関、入口。
ないでしよう。
麦わらなどの堆肥を切る道具。武器の長刀に似る。
なじり喰い。いやいや食べる。気に入らない食べ物などぐずぐず食べる。
大声で叱る。どなりつける。
撫ぜる。
なにを云う。(喧嘩言葉)
塗る。
なべえ口。おべつか。へつらい。おもねる。
南京袋。麻袋。穀物などを入れる麻製の袋。
穏やかに。やさしく(話す)。
南蛮。木鉄。
煮だんご。すいとん。小麦粉を練って鍋の中へちぎって入れて煮てつくる。
におい。
蛾の幼虫で頭部を動かす。
中途半端な。「あいつの仕事はにちゆうだかんな」
二番座。後妻。後添え。
二分。半分。戦前の金では五十銭のこと。
鈍い。感覚が遅い。のろい。
にら虫。ハンミョウの幼虫で庭などに小さな穴をあけて成虫になって出てくる。
云うの喧嘩言葉。
ぬくとい。暖かい。
虫や蛇のぬけがら
塗屋。壁を厚くした土蔵風の納屋、物置。
にえた。煮えた。
熱い。丁寧すぎる。充分すぎる。仕事。
ねむたい。寝むたい。
能書きを云うな。(喧嘩言葉)
期間。成長期間。野菜の成長期間。
惚れ込む。信用して。
仕事が予定より延びる。
無鉄砲。無計画。考えなしに。
なめらか。転じて、円滑、親密。
倍花。祭りなどのお祝金を倍に書いて貼り出す。お返し品なし。
代々その生まれ。土地っ子。
①茗荷の子。②馬鹿。③「ばか暑い」「ばか高い」等強調語として使われる。
馬鹿の強調語。
馬鹿にしての強調語。

はがみつちよ
はがむ
はぐさ
はくそ
はしかけ
はしつこい
はしやく
はすつけえ
はっこくる
はつこむ
はつちん
はつぱつこ
はなえる
はなもひっかけねえ
はなをおっぺす
はなをかける
ばやかり
はらきり
はらつぷさぎ
ばんがた
はんげ
はんま
ひきずり
ひきわりめし
ひこつさつく
ひこゆび
ひだるい
ひっこする
ひっこんこん
ひとつきり
ひとつちやくり
ひとにゆく
ひねる
ひぼ
ひぼか
ひまつかき
ひやだつかぶき
ひよとり
ひよつたくれ
ひよる
ひらへと
ひんぬく
ひんまがる
ふくらつぱぎ
ふさつてる
ぶつけえつた
ぶつけなす
ぶつこくり
ぶつたち
ぶつてる
ぶつとす
ぶま
ふんがけた
ふんごねえた
ふんごむ
ふんずべる

トカゲ。カナヘビ。
子供の欲求不満。
葉草。めいしば。(除草剤ができるまでは畑での最強の草)
歯くそ。歯垢。
縁談のとりもち。
すばしこい。抜け目がない。
①乾燥する。乾く。②うきうきして調子にのりさわぐ。
斜め。
なぐりつける。(喧嘩言葉)
得なことを自分の方へ寄せる。かつこむとも云う。
小鳥などを捕える罟。手作りで作る。
水木。かぎつちよの木。枝がカギのようになっていいる。
並べる。拡げる。「店に品物をはなえる」
無視する。相手にしない。
鼻を押つぺす。自慢しているものをけなす。
はなを掛ける。お祭りなどにお祝いを出す。「ばいばな」
ばや刈。林の下草や笹などを刈ること。
腹切り。袋蜘蛛。
一時的に空腹を満たす。一時しのぎ。
晩方。夕方遅く。
半分の収量。五分作とも云う。不作のこと。
①車輪。②十分に仕事の出来ない人。
引きずり。だらしのない。しまりのない。
挽割飯。麦飯の代表的なもの。大麦の皮を剥いで臼で挽割り、米と混ぜた飯。
畑の端にできる端数の作条。
小指。
空腹。腹が減って元気がでない。
当てこすりを言う。
しっこんこんとも云う。片足での跳び歩き。子供の遊び。
いつとき。ちよつとの間。しとつきりとも云う。
一杓り。手の親指と人差指(又は中指)を伸ばした長さ。
ひとに行く。電話などが無い時代、親戚などに死亡を知らせるのに二人で行く。
収穫後一年以上経った穀物・古米。次越のもの。
①種を播く。②料理のために鶏の首をねじる。
ひも。紐。
ひもかわ。紐かわうどん。幅広いうどん。
暇つかき。ありがたくないあるいは他人の用事で時間をつぶす。
杉・桧の皮の屋根。
日雇い。日雇い人足。手間取り。人夫。
馴きん者。気軽に人を笑わせたりする人。
皮肉。「ひよつてやった」
次々と。どんどんど。
ひきぬく。引き抜くの強調語。ひっこぬくとも云う。
曲がるの強調語。
ふくらはぎ。脹脛。
伏せつてる。病気で休んでる。
突然倒れた。倒れた。
くさす。くさすの強調語。
無愛想。一刻者。とつつきにくい人。
立ち姿。形。「ぶつたちがいい」(姿勢がいい)
格好をつける。気どっている。
突き通す。刺すの強調語。
不運。不幸。「ぶまをくつた」(不幸に見舞われた)。
立ち寄った。途中で寄り込んだ。
踏み荒らした。
ふみこむ。踏み込む。
踏む。踏みつける。

ふんぞる
ふんだらべえでもねえ
ふんと
ふんどまりがねえ
ぶんなげる
ぶんばさみ
ぶんまわり
へえさらばあさら
へえつき
へクサズル
へこた
へずる
へだらこけ
べっかんこ
べったくしょ
へぼった
へべそ
へんのかんの
べんべらっこ
へんまがつた
ぼういれ
ぼうがねえ
ぼうけた
ぼーち
ほきだす
ほきる
ほごす
ほし
ほしあら
ほすっこ
ほっこす
ぼっち
ほまち
ぼろっかんこ
ほんこ
ほんこ
まぐそだけ
まくもうぞう
まざく
まだらっこい
まつつく
まつと
まみや
まるいも
まるじゅう
まるひき
まんが
まんじゅうむし
みこ
みしみてやらねえ
むいから
むしやぐる
むだつぽね
むる
めえまじってえ
めじこく

そり返る。または踏み倒す。
何か理由が判らないが無視される。挨拶もない。無視されてる。
ほんど。
方針がない。自信がないので考え方がまとまらない。判断ができない。
ぶん投げる。投げるの強調語。
①文挟み。②二股道。Y字路。
まわりの強調語。めぐり。木の大きさなど。
いい加減な(はなし)。何のことかわからない。つかみどころがない。
はえつきと同じ。
へクソカズラ。
歪な瓜類。
少しづつ抜き取る。判らないように抜く。
冗談を云うな。(喧嘩言葉)
変形した(缶など)。いびつな。
平たい(石など)。
疲れた。持久力がなくなった。
雑草。カラスビシャク。泥喰い。
あれこれ理由をつける。承諾しない。賛成しない。不承知。
むかご。じねんじよの実。
まがつた。曲がつたの強調語。
棒入れ。講などに参加する基本費用。
やりようがない。対応がない。困った。
①(野菜などが)収穫期をすぎ食料に向かなくなる。②老人の痴呆。
棒打ち。くるり棒で麦類の脱穀。
吐き出す。
(植物が)繁る。伸びる。
ほぐす。解く。
せん。栓。ふた。
満天の星。
みみずく。このはずく。
こわす。壊す。解体する。
小麦類を刈って束ねて脱穀まで積み上げておくもの。
(向かい合わせて立て掛けて掛ける方法は拌みという)
内職程度のあきない。ちいさな店。隠居店。
ぼろ籠。背負い籠。小さな道具や茶のみ道具などを運ぶ籠。
本気。
盆供。八月一日盆供養。
馬糞茸。場所を選ばず出る馬糞に似たきのこ。転じてどこへでも出歩く人。
粗糞。(仕事)手荒い。もうぞうの強調語。
枯れたなどの苗のところに補植する。
まだるっこい。間怠るい。のろのろ・ぐずぐずしている。(動きが)じれったい。
まつすぐ。真直ぐ。
もつと。
まゆ。眉。
○芋。馬鈴薯、じゃがいもの市場用語。ジャガタラ、ジャガと呼ぶ。
さつまいもの市場用語。島津家の家紋から。
お金。
万能。主に堆肥用の万能。
かぶと虫の幼虫。
見栄え。みてくれ。外見。
身を入れてしない。不熱心。仕事に落ち着いて取り組まない。
麦稗。麦わら。
糞(むしる)。「絵をむしやぐる」
無駄骨。無駄な仕事。無意味になった仕事。
漏る。
いまましい。癪にさわる。
可哀想。同情心のわく。

めつかんねえ
めつけもん
めめしろ
めめず
めんち
もあいしごと
もうぞう
もうちつと
もげる
もこ
もたれたがる
ももつたね
もりつこ
やきびん
やきもち
やくさま
やけやけ
やさい
やしつび
やつこい
やつちほど
やつちやうべえ
やつぱ
やばね
やべ
やま
やめべえや
やらつしええ
やるつこ
やんべえ
やんめ
ゆいのかたいれ
ゆすぶる
ゆだれ
ゆんべ
ようやつと
よおのめ
よかんべえ
よこざつこ
よこざつぽ
よこつちよ
よさつしええ
よじくる
よそみ
よたもん
よつたり
よつちやくなる
よつつかねえ
よつびて
よでつぱら
よばれる
よばん
よべや
よまあり
よめつこ
よらつしええ

みつからない。見つからない。
珍しいもの。もうけもの。
寛永通宝。大小あり。

めんこ。
もやい仕事。お互いに手伝いあう仕事。隣近所の助け合い仕事。
雑。粗い。ぞんざい。
もう少し。

挽げる。(取っ手が)取れる。抜ける。

自分を重くみてもらいたい。重要視してもらいたい。
ふともも。太腿。

守つ子。子守。
たらしやき。小麦粉を練って焙烙で焼いたもの。
残り飯と小麦粉を混ぜて練り、焙烙で焼いたもの。

やくしさま。薬師如来。(八日が縁日)
ヒグラシ。その鳴声。
軽い。「病気がやさい」
散らかったごみなどを焚くこと。

①やわらかい。②人のいいなりになる。お人よし。
いやと云う程。
やっつしまおう。

やはり。
矢羽根。二条大麦。ビール麦。

行こう。
この辺りでは、山林をやまと云う。今の里山。

やめよう。
食べませんか。

男の子。
やりましょう。「しごとをやんべえ」
やん目。流行性結膜炎。
結納かたいれ。結納と同時に婚家に入る。足入れ婚。

ゆさぶる。
よだれ。
ゆうべ。

ようやく。
魚の目。

いいでしょう。
竹の根の先端。根の先。

よこがお。横つら。
「よこざつぽをひっぱてえてやった」(喧嘩して相手の横顔を張った)
横のすぐ脇。
およしなさい。

繕る。ねじる。
外見。脇見。
与太者。素行不良者。

四人。
寄り集まる。固まる。集団。

寄り付かない。敬遠する。
ひと晩中。朝まで。徹夜。

腹いっぱい。満腹するほど。
招かれる。招待される。

夜番。火の番。夜警。
呼んでくれ。
四回り。竹箆で四隅丈夫な作り。収穫物の持ち運び用。
嫁つ子。嫁。
寄っついきなさい。

よんべえや
りんりきしや
ろくさつぽ
わけえし
わざつと
わたざる
わっか
わっち

寄つていこう。
じんりきしや。人力車。
ろくさつぽ
若い衆。
①故意に。意識的に。②(贈り物をするときなど) 少々ですが。
魚の内臓などを腐らせて肥料にする。悪臭がする。
輪。車輪。
わたし。

● アイ・アエ・イエの発音がエエとなった言葉

例文を「・・・」で示す

あくてえ
あつためけえし
あつれえる
あめえ
あれえざれえ
あんにもねえ
あんべえ
ええて
いいてえほうでえ
いけねえ
いちげえ
いっちめえ
いっぺえ
いてえ
いねえか
うらげえし
うるせえ
えてえのしれねえ
えれえ
えんでえ
おしっけえし
おつかねえ
かたあねえ
かねえっこねえ
かまあねえ
かんげえられねえ
きぐれえがたけえ
きめえがいい
きりがねえ
くいたりねえ
ぐうええがわりい
ぐにもつかねえ
くれえ
けえす
けえる
げえぶんがわりい
げえもねえ
こねえだ
さけえ
ざまあねえ
しつたこたあねえ
しょうがあんめえ
しよつかれえ
しらねえで
せえかち
せつねえ
ぞうさもねえ
ぞうじやあんめえ
そつけねえ
そのくれえ
そりがあわねえ
たまんねえ
ちけえ

あくたい。悪態。悪口。
暖め返し。(一度暖めたものを更にまた暖める)
誂える。
甘い。「あの人はあめえ」(侮り言葉)。
あらいざらい。初めから終わりまで全部。残らず。「あれえざれえ話す」
なんにもない。
あんばい。塩梅。按排。「いいあんべえ」(いい天気等に使う)
あいて。相手。
云いたい放題。好き勝手なことを云う。
いけない。
一概。
行つてしまえ。ほかへ行け。(追い払う言葉。喧嘩言葉)
一杯。沢山。いっぱい。
痛い。
いないか。不在か。
裏返し。
うるさい。煩い。五月蠅い。騒がしい。叱る又は喧嘩言葉。
得体のわからない。正体不明の。
偉い。大きな。「えれえ違え」、「えれえ目にあつた」(ひどい目に遭つた)
縁台。
押し返し。争いごと。
おそろしい。こわい。
かたなし。
かないっこない。
かまわない。世話をしない。面倒をみない。かまつてやらない。
考えられない。
気位が高い。
気前がいい。余分に呉れる。気配りのよい。
きりがない。
喰い足りない。物足りない。
(体調、機具類の)具合が悪い。調子が悪い。
愚にもつかない。
暗い。よく知らない。
返す。
帰る。
外聞が悪い。そとぎきが好くない。聞こえが悪い。体面上よくない。
げいもない。芸も無い。無用なこと。無駄なこと。よした方がよいなど。
このあいだ。この間。先日。
境。
ざまあない。いい気味だ。(喧嘩言葉)
知つたことではない。そのようなことは感知しない。知らんぷり。
しょうがあるまい。
塩辛い。しよっぱい。
知らないで。
さいかち。甲虫。
切ない。
造作もない。
そうではあるまい。
素っ気ない。
そのくらい。
反りが合わない。
たまらない。
近い。

つれえ
てえせえ
でえ
てええ
でえかぐら
でえく
てえげえ
でえじようぶ
でえち
てげえし
でっけえ
でほうでえ
てめえ
てめえがつて
とっつかめえる
どでえ
ともれえ
なかたげえ
なめえ
なれええで
にあわねえ
にげえ
ねえ
ねえものねだり
ひでえ
ふうてえ
ぶりつけえす
へえ
べえある
へえてえ
へえれ
みたんねえ
みちやあいらねえ
みつともねえ
むけえかわ
めえねえ
めえ
めつそもねえ
めんどうくせえ
もつてえねえ
もんでえねえ
やつけえ
やれえ
ようでえ
よしてえ
よりええ
わきやねえ
わけがわかんねえ
わりええ

辛い。
ていさい。体裁。外観を整える。
台。
てあい。手合い。仲間。
だいかぐら。大神楽。獅子舞。
大工。
大概。
大丈夫。
第一。
手返し。
でつかい。
出放題。
手前。
手前勝手。
とつ捕まえる。
土台。
ともらい。
仲違い。
名前。
なれあいで。馴れ合いで。恋愛で。好き合つて。
似合わない。
苦い。
ない。
ないものねだり。
ひどい。
ふうたい。
ぶりがえす。病気の再発。
はい。灰。塀。
倍ある。
兵隊。
はいれ。入れ。
見足りない。
見ていられない。
みつともない。
向かい側。
見えない。
前。
滅相もない。
面倒くさい。
もつたいない。
問題ない。
厄介。
矢来。
ようだい。容態。病状。
よしたい。やめたい。
よりあい。寄り合い。
わけはない。
わけがわからない。
割り合い。